

# 北海道えりも町字目黒で捕獲されたカブトムシ *Trypoxylus dichotoma* (短報)

高木大稔<sup>1)</sup>

## キーワード

カブトムシ、ブルーリスト、国内外来種、えりも町

## はじめに

甲虫目コガネムシ科のカブトムシ *Trypoxylus dichotoma* は、北海道には自然分布していない、しかし、本種は人為的に持ち込まれ、1936年に初確認、1970年代には定着したと推測されている。本種は道内各地で記録があり、今や北海道の国内外来種の代表格である。(北海道 2010、丸瀬布昆虫館 HP) (図1)

本種は、北海道ブルーリスト 2010 に掲載され、カテゴリー区分A2「本道の生態系などへ大きな影響を及ぼしており、防除対策の必要性について検討する外来種」に指定されており、餌資源としては少ない樹液を餌にすることから、在来クワガタムシなどと競合し、生態系に影響を及ぼすことが分かっている。(北海道 2010)

著者はこれまで、えりも町内で報告例がないカブトムシを確認したので報告する。

## 採捕記録

著者は令和元年(2019年)8月18日、豊似湖(えりも町字目黒)へ別の調査に出かけた帰路、同地区の墓所から市街間の舗装路を横断する大型の甲虫類1匹を走行中の車中から発見し、素手で捕獲すると、国内外来種のカブトムシであった。

捕獲したカブトムシは、体長4.2cmのメスで、捕獲後、えりも町郷土資料館に持ち帰り、酢酸エチルを用いて駆除後、展足し、標本として同館で保管している。(写真1)

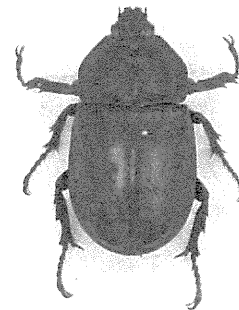


写真1：捕獲されたカブトムシ♀

## 考察

カブトムシが捕獲されたえりも町目黒は、一部が日高山脈襟裳国定公園内であり、特別地域に指定されている豊似湖を有している。市街周辺から豊かな針広混交林が続いており、中心にはえりも町最大河川の猿留川が流れている。

この周辺では、ミヤマクワガタ、スジクワガタ(大原ら 2019)、オニクワガタ、アカアシクワガタ、コクワガタ(高木私信)などの在来クワガタムシの生息が確認されており、カブトムシの生息は、これらの昆虫類の生息に大きな影響を及ぼすことが懸念される。

著者はカブトムシを捕獲した際、町内の種苗

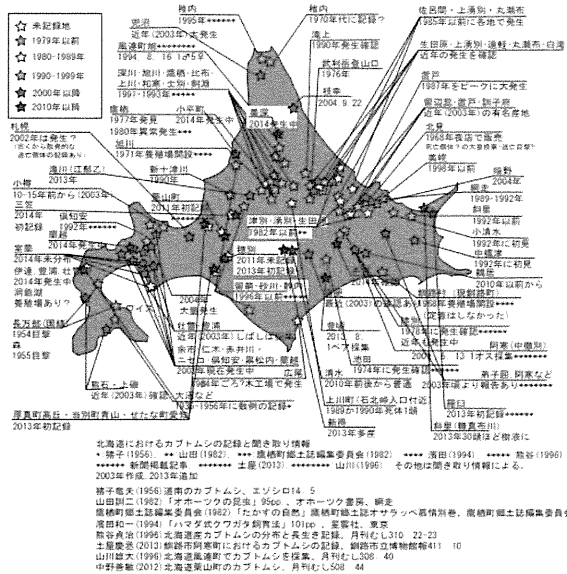


図1：北海道のカブトムシの実態

1) えりも町郷土資料館

店の付近であったことから、当初は種苗店の堆肥等に紛れ込み運ばれてきたものであると考えた。しかし、それ以前にも町内在住の小学生から、えりも町字近浦ニカンベツ川周辺でカブトムシを発見したことを聞いていること（高木私信）、隣接している広尾町での記録があることから、町内ですでに分布が広がっている可能性も考えられる。

今後、早急に町民への聞き取り調査、確認された付近での誘引餌トラップを用いた捕獲調査などを実施し、町内における本種の現状把握をすることが重要であり、これ以上本種が生息を拡大することを防ぐべきである。

## 文献

大原ら（2019） 北海道えりも町豊似湖周辺ほか昆虫調査報告 III.甲虫類 2－えりも研究 17号：P5-P15

北海道 2010

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/grp/01/blulist2010.pdf>

丸瀬布昆虫館 HP（北海道のカブトムシの実態）

<http://engaru.jp/~insect/icon/kabutomap.pdf>